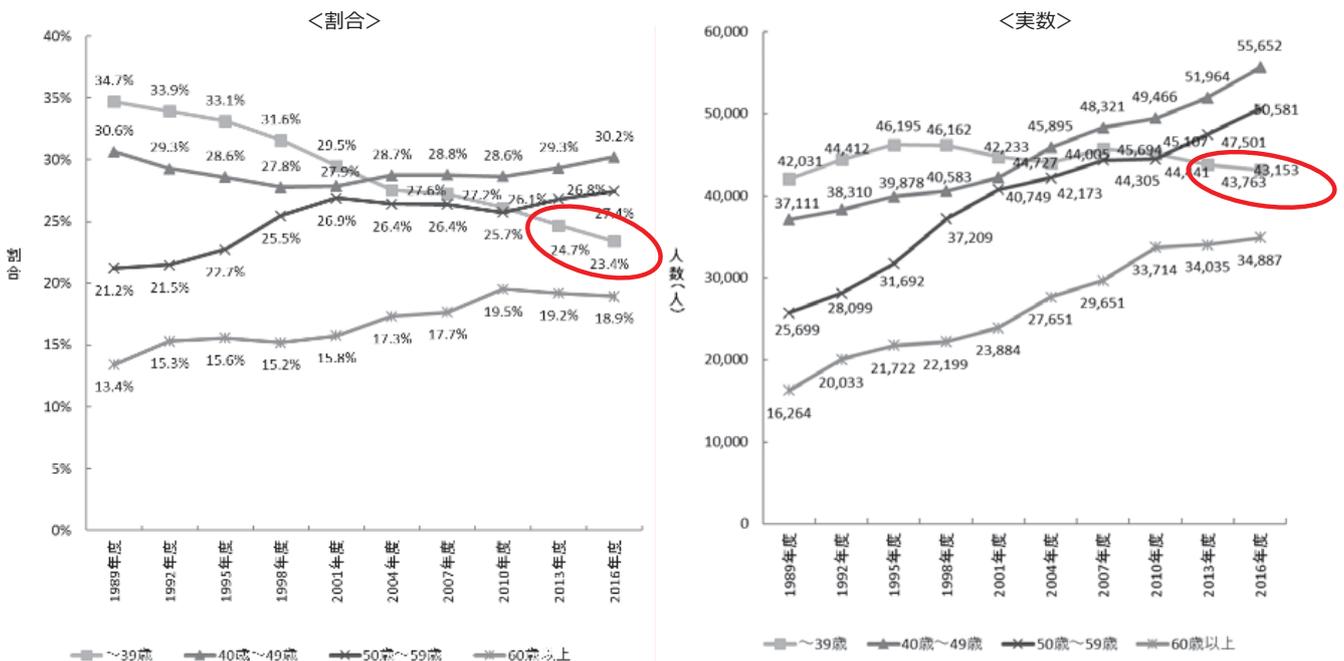


- ① 40歳未満の大学本務教員の数を1割増加させるとともに、将来的に、我が国全体の大学本務教員に占める40歳未満の教員の割合が3割以上となることを目指す。

【①40歳未満の大学本務教員数】の目標値

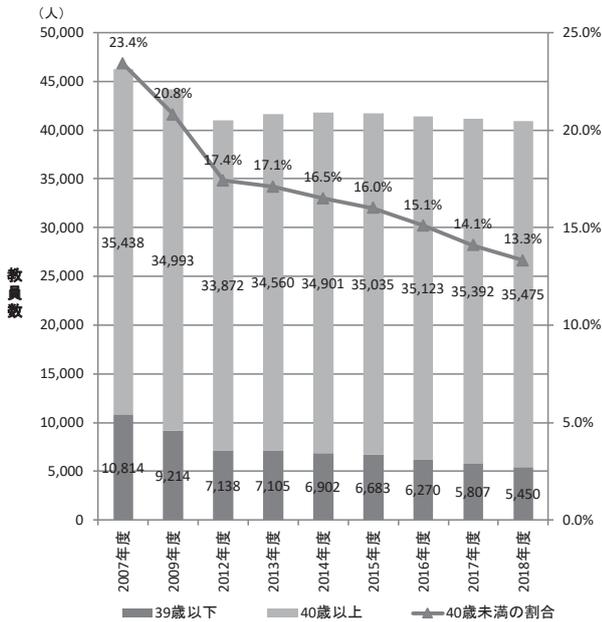
図表1 大学本務教員の年齢構成（大学等）



注) 「任期無し」のデータは取得できないため、ここでは、大学本務教員数のデータを記載した。数字は各年度の10月1日現在。対象となる職種は、学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手である。
 出典：文部科学省「学校教員統計調査」を基に作成。

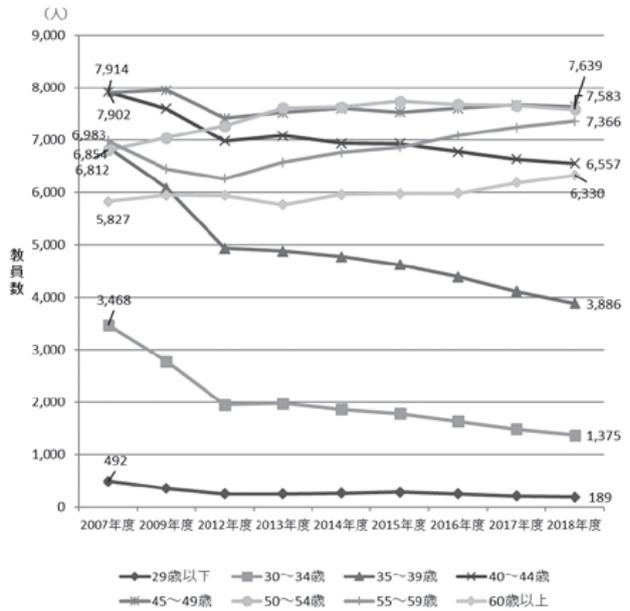
【①40歳未満の大学本務教員数】に関連する主要指標

図表2 国立大学の年齢階層別任期無し教員数と任期無し教員に占める40歳未満の割合



出典：文部科学省調べに基づき内閣府作成

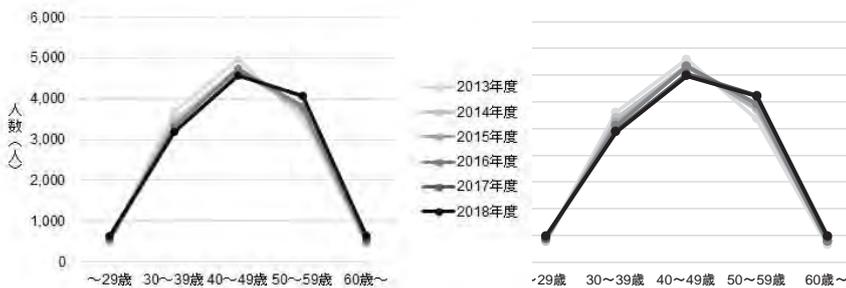
図表3 任期無し教員数（年齢階層別）



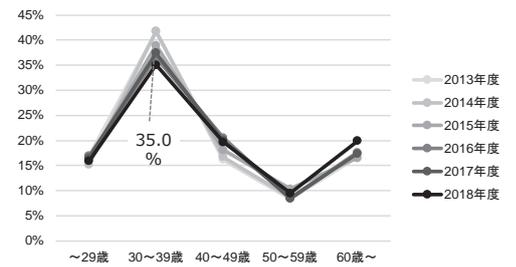
出典：文部科学省調べに基づき内閣府作成

【①40歳未満の大学本務教員数】に関連する主要指標

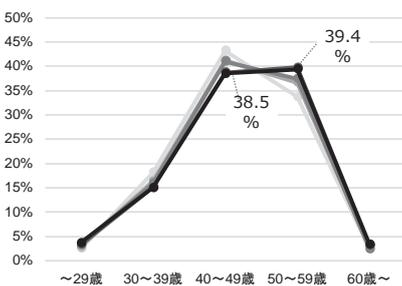
図表4 常勤研究者（非任期付・任期付合計）の構成（年代別）（実数・割合）（注）



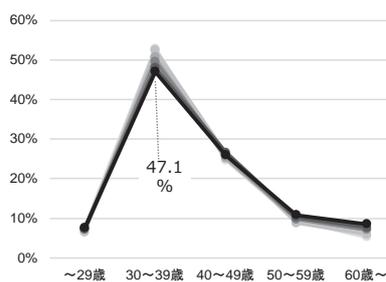
図表5 非常勤研究者の構成（年代別）（注）



図表6 常勤研究者（非任期付）の構成（年代別）（注）



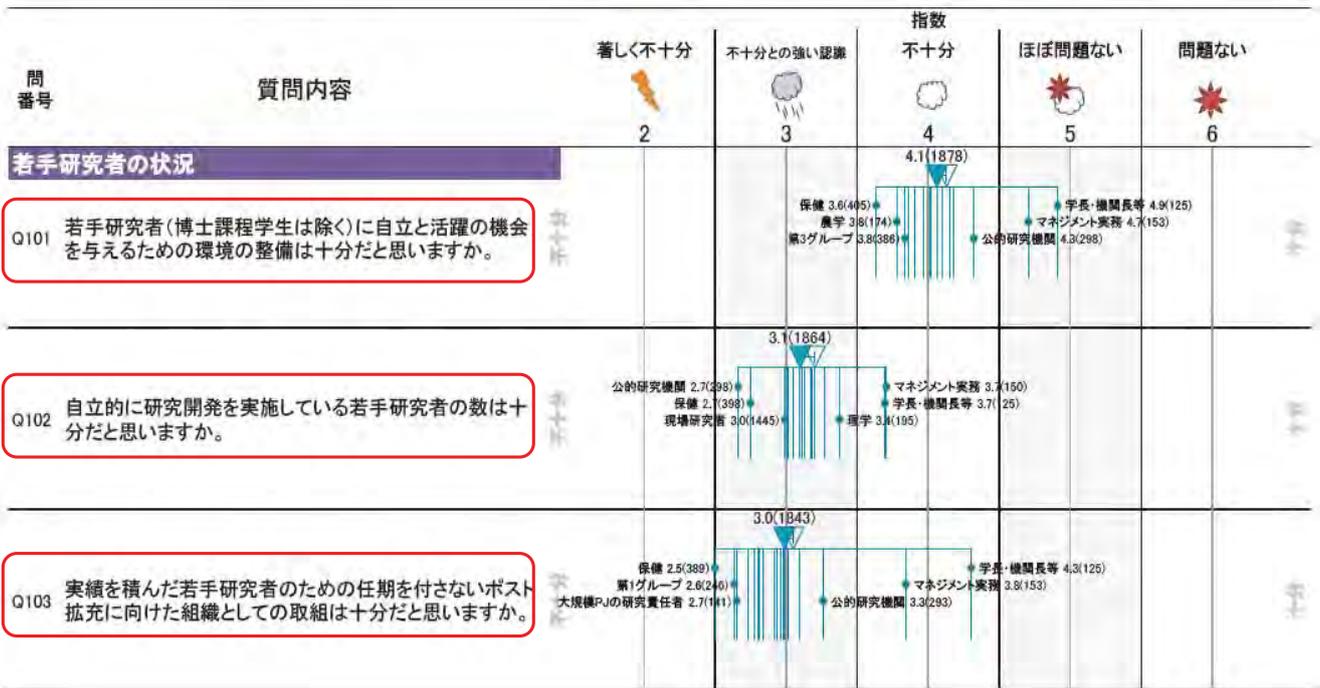
図表7 常勤研究者（任期付）の構成（年代別）（注）



注）自ら研究開発を行う研究開発法人29法人に関する集計結果。
出典：内閣府「研究開発機能に関する調査」を基に作成。

【①40歳未満の大学本務教員数】に関連する参考データ

図表8 若手研究者の状況 (NISTEP定点調査2018より)

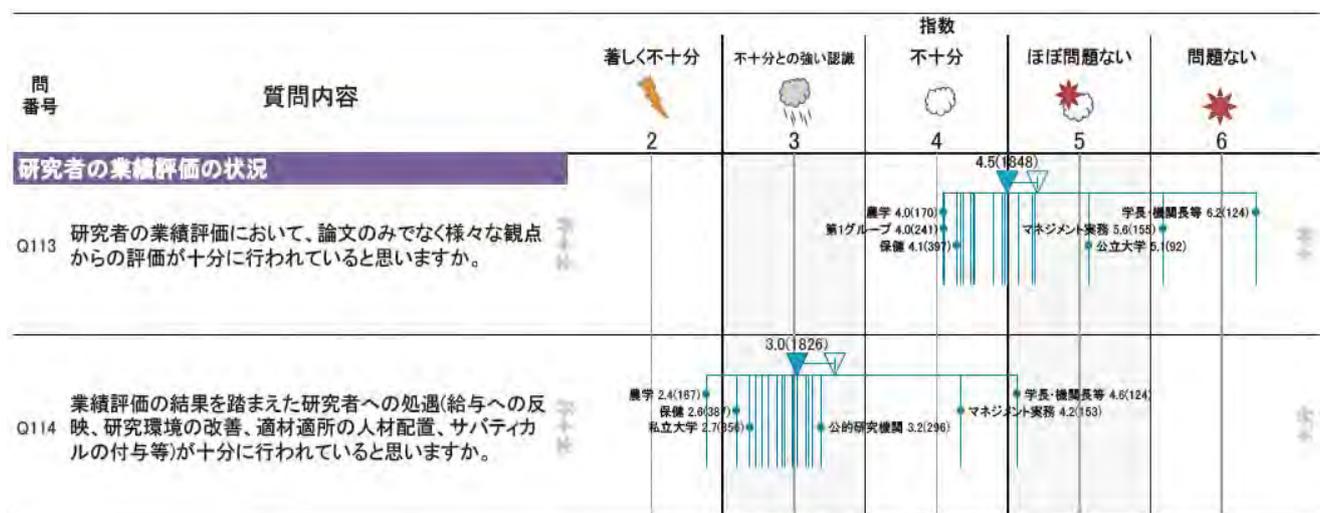


注) 青色の逆三角形は大学・公的研究機関グループ全体の指数を示している。白抜き三角形は、2016年度調査の全体の指数を示している。各線は、各属性の指数を示す。指数の上位及び下位3位までについて、属性名、指数、回答者数を示している。回答者数が50名以上の属性を表示している。指数とは6点尺度質問の結果を0~10ポイントに変換した値である。

出典：文部科学省 科学技術・学術政策研究所「科学技術の状況に係る総合的意識調査 (NISTEP定点調査2018)」

【①40歳未満の大学本務教員数】に関連する参考データ

図表9 研究者の業績評価の状況 (NISTEP定点調査2018より)



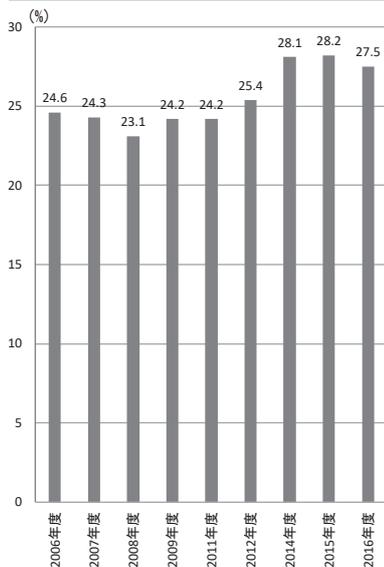
注) 青色の逆三角形は大学・公的研究機関グループ全体の指数を示している。白抜き三角形は、2016年度調査の全体の指数を示している。各線は、各属性の指数を示す。指数の上位及び下位3位までについて、属性名、指数、回答者数を示している。回答者数が50名以上の属性を表示している。指数とは6点尺度質問の結果を0~10ポイントに変換した値である。

出典：文部科学省 科学技術・学術政策研究所「科学技術の状況に係る総合的意識調査 (NISTEP定点調査2018)」

② 女性研究者の新規採用割合に関する目標値（自然科学系全体で30%、理学系20%、工学系15%、農学系30%、医学・歯学・薬学系合わせて30%）を速やかに達成。

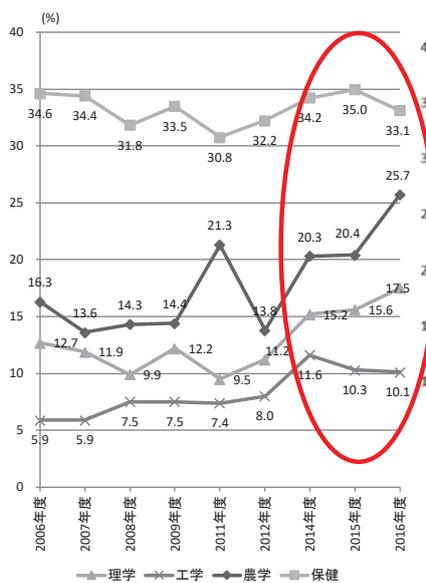
【②女性研究者の新規採用割合】の目標値、関連する主要指標

図表1 採用教員に占める女性教員の割合
(大学等、自然科学系)



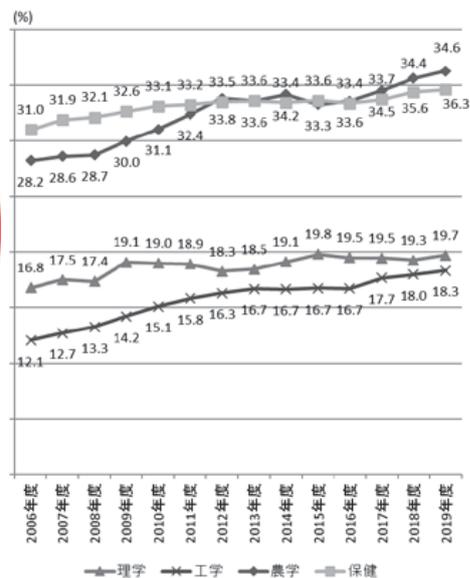
出典：文部科学省調査データを基に作成。

図表2 採用教員に占める女性教員の割合
(大学等、分野別)



注) 大学が採用した教員(非常勤教員を除く)のうち、教授、准教授、講師、助教について集計。
出典：文部科学省調査データを基に作成。

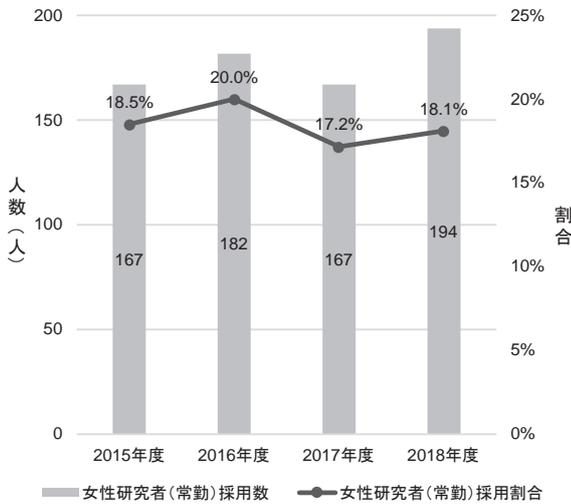
図表3 博士課程後期の女性の割合(大学等)



注) 数値は調査年度の5月1日現在。
出典：文部科学省「学校基本調査」(各年度)を基に作成。

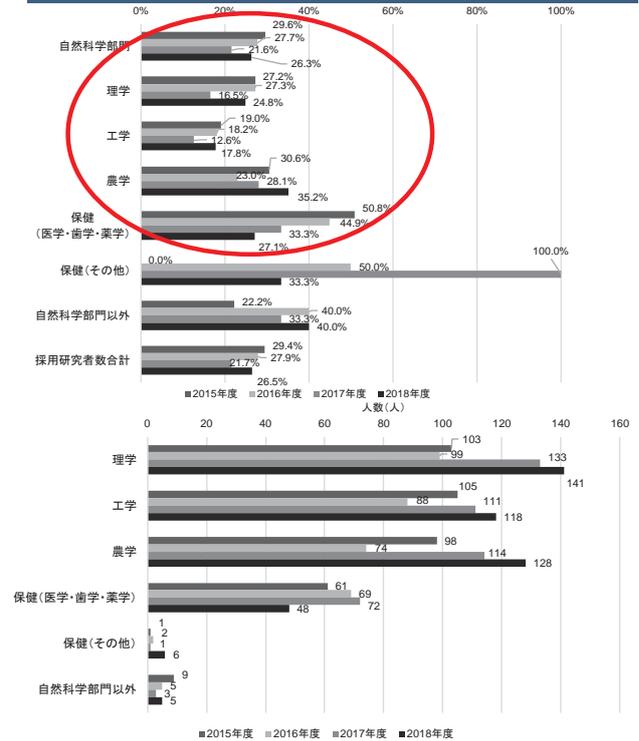
【②女性研究者の新規採用割合】の目標値、関連する主要指標

図表4 研究開発法人における女性研究者の採用割合（常勤）



注1) 研究者の定義は「科学技術研究調査」に準じる。常勤（任期無し）を含む。非常勤研究者および出向研究者の受け入れなどは含まない。
 注2) 女性研究者の採用割合は常勤よりも非常勤で高いため、常勤・非常勤を合計すると全体的に女性研究者の採用比率は高まることに注意。
 注3) 全分野を対象としている。
 出典：内閣府「研究開発機能に関する調査」を基に作成。

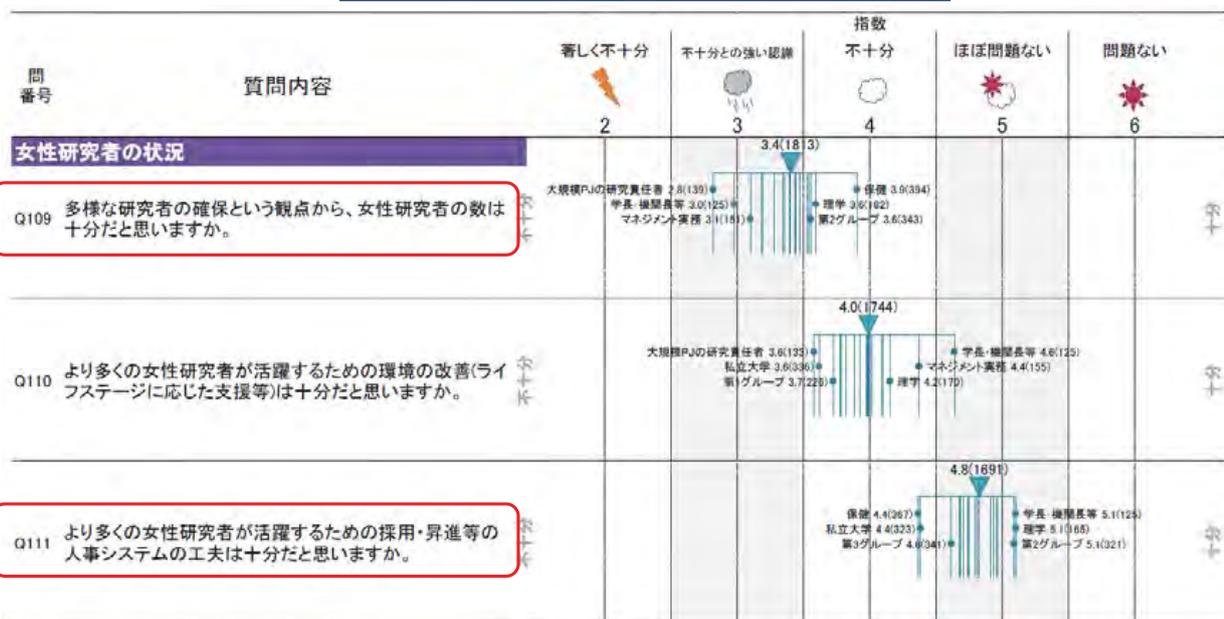
図表5 新規採用者に占める女性研究者数・割合（分野別）



注) 常勤（任期付、非任期付）及び非常勤の女性研究者の合計値。
 出典：内閣府「研究開発機能に関する調査」を基に作成。

【②女性研究者の新規採用割合】に関連する参考データ

図表6 女性研究者の状況（NISTEP定点調査2018より）



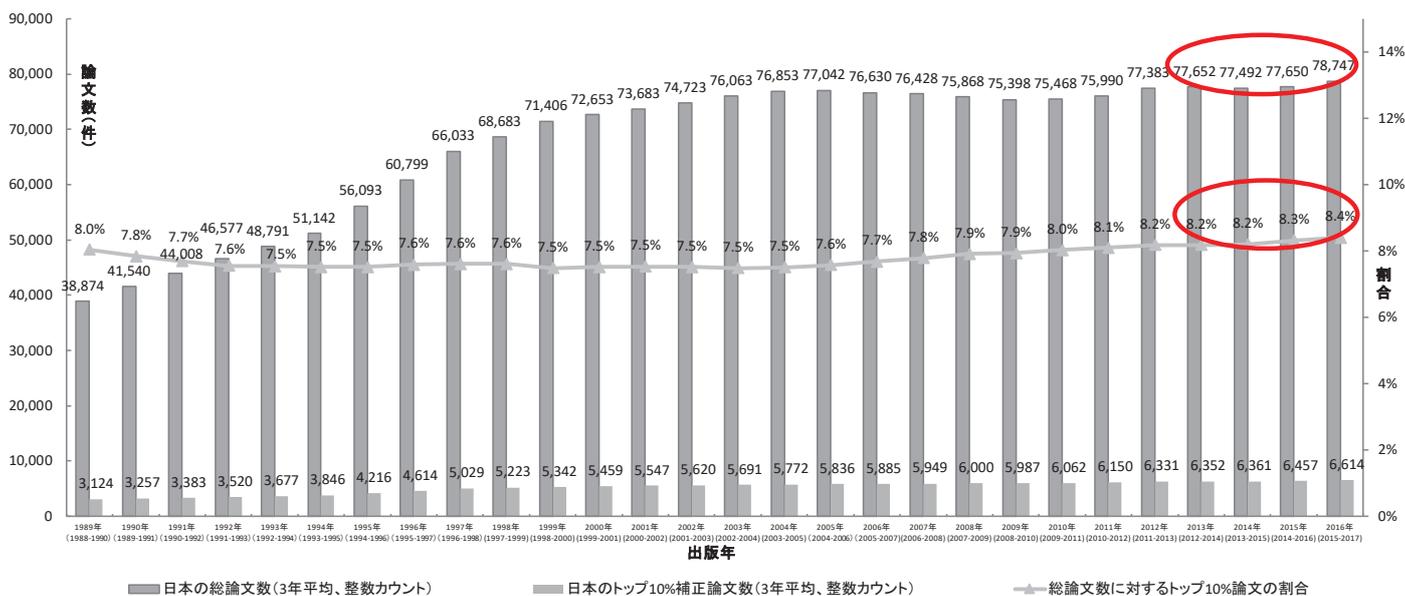
注) 青色の逆三角形は大学・公的研究機関グループ全体の指数を示している。白抜き三角形は、2016年度調査の全体の指数を示している。各属性は、各属性の指数を示す。指数の上位及び下位3位までについて、属性名、指数、回答者数を示している。回答者数が50名以上の属性を表示している。指数とは6点尺度質問の結果を0~10ポイントに変換した値である。

出典：文部科学省 科学技術・学術政策研究所「科学技術の状況に係る総合的意識調査（NISTEP定点調査2018）」

③ 我が国の総論文数を増やしつつ、我が国の総論文数に占める被引用回数トップ10%論文数の割合が10%となることを目指す。

【③論文数】の目標値

図表1 我が国の総論文数及び総論文数に占める被引用回数トップ10%（補正）論文数の割合（整数カウント）

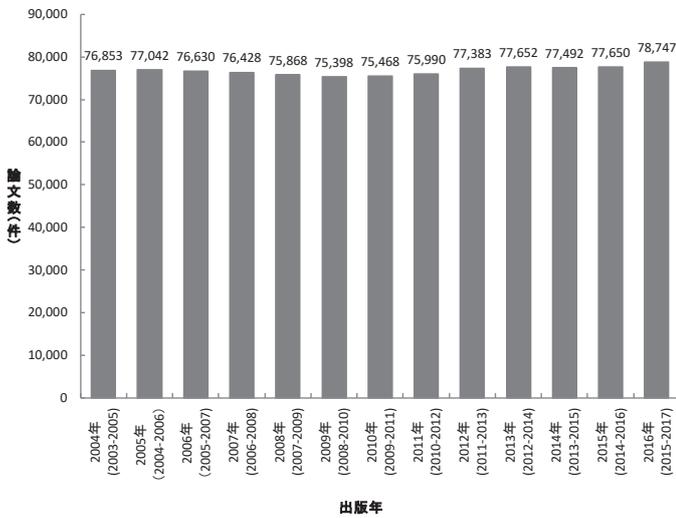


注1) 論文の被引用数（2018年末の値）が各年各分野（22分野）の上位10%に入る論文数がTop10%論文数である。Top10%補正論文数とは、Top10%論文数の抽出後、実数で論文数の1/10(1/100)となるように補正を加えた論文数を指す
 注2) 分析対象は、Article、Reviewである。年の集計は出版年（Publication year, PY）を用いた。全分野での論文数の単年、整数カウント法である。被引用数は、2018年末の値を用いている。Top10%補正論文数は22分野ごとに抽出しているため、分野分類できない論文は除外して算出している。
 注3) データベース収録の状況により単年の数値は揺れが大きいため、3年移動平均値を用いている。クラリベイト・アナリティクス社 Web of Science XML (SCIE, 2018年末バージョン)を基に、科学技術・学術政策研究所が集計。
 出典：文部科学省科学技術・学術政策研究所、調査資料-283、科学技術指標2019、2019年8月

【③論文数】に関連する主要指標

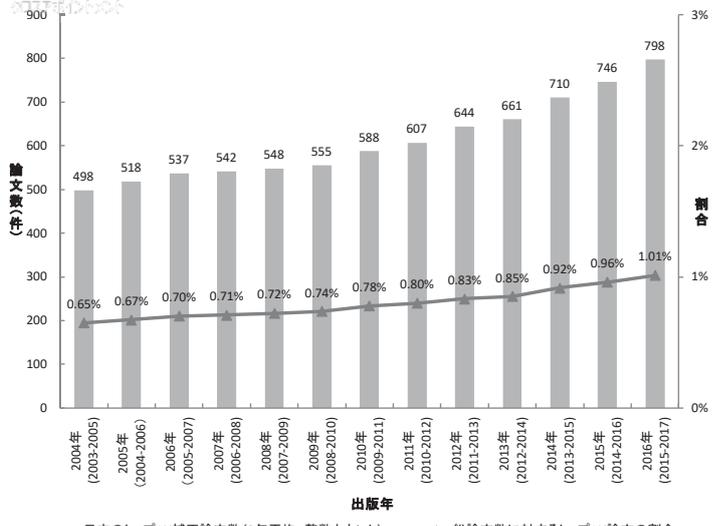
図表2 日本の総論文数の推移

【総論文数（3年平均、整数カウント法）（全分野）】



図表3 日本の被引用回数トップ1%論文数及び総論文数に占める割合

【日本のトップ1%補正論文数と総論文数に占める割合の推移（3年平均、整数カウント法）（全分野）】

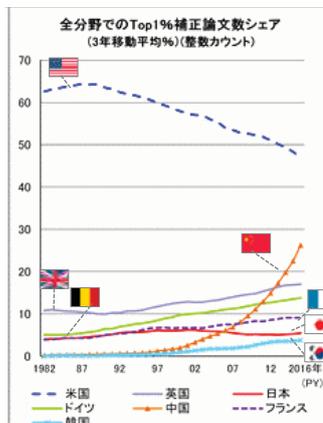
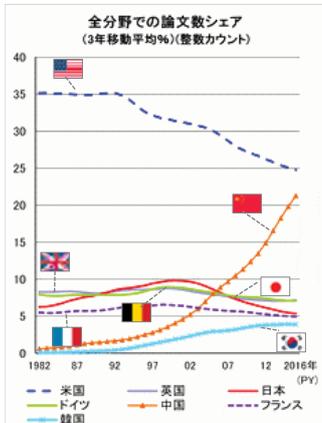


注1) 論文の被引用数（2018年末の値）が各年各分野（22分野）の上位1%に入る論文数がTop1%論文数である。Top1%補正論文数とは、Top1%論文数の抽出後、実数で論文数の1/100となるように補正を加えた論文数を指す。
 注2) 分析対象は、Article、Reviewである。年の集計は出版年（Publication year, PY）を用いた。全分野での論文数の単年、整数カウント法である。被引用数は、2018年末の値を用いている。Top1%補正論文数は22分野ごとに抽出しているため、分野分類できない論文は除外して算出している。
 注3) データベース収録の状況により単年の数値は揺れが大きいため、3年移動平均値を用いている。クラリベイト・アナリティクス社 Web of Science XML (SCIE, 2018年末バージョン)を基に、科学技術・学術政策研究所が集計。
 出典：文部科学省科学技術・学術政策研究所、調査資料-283、科学技術指標2019、2019年8月

【③論文数】に関連する主要指標

図表4 主要国の論文数シェア及びトップ1%補正論文数シェア

トップ1%補正論文数シェア（3年移動平均、整数カウント）



国・地域名	1995 - 1997年 (PY) (平均)			2005 - 2007年 (PY) (平均)			2015 - 2017年 (PY) (平均)		
	論文数	シェア	順位	論文数	シェア	順位	論文数	シェア	順位
全分野	4,024	60.6	1	5,047	54.0	1	6,903	47.0	1
米国	752	11.3	2	1,275	13.6	2	3,854	26.2	2
ドイツ	534	8.0	3	1,034	11.1	3	2,500	17.0	3
フランス	438	6.6	4	703	7.5	4	2,024	13.8	4
カナダ	388	6.0	5	648	6.9	5	1,340	9.1	5
日本	388	6.0	6	567	6.1	6	1,314	8.9	6
オランダ	251	3.8	7	506	5.3	7	1,206	8.9	7
イタリア	223	3.4	8	503	5.4	8	1,146	7.8	8
スイス	202	3.0	9	466	5.0	9	1,021	7.0	9
オーストラリア	189	2.8	10	402	4.3	10	940	6.5	10
オーストラリア	150	2.3	11	388	4.1	11	905	6.2	11
スウェーデン	113	1.7	12	363	3.9	12	788	5.4	12
スペイン	96	1.4	13	253	2.7	13	629	4.3	13
イスラエル	94	1.4	14	221	2.4	14	554	3.8	14
デンマーク	90	1.4	15	184	2.0	15	551	3.8	15
ベルギー	67	1.0	16	167	1.8	16	488	3.3	16
ロシア	63	0.9	17	143	1.5	17	455	3.1	17
中国	61	0.9	18	138	1.5	18	349	2.3	18
フィンランド	54	0.8	19	130	1.4	19	373	2.5	19
オーストラリア	44	0.7	20	110	1.2	20	391	2.7	20
イタリウエ	36	0.5	21	99	1.1	21	373	2.5	21
インド	34	0.5	22	99	1.1	22	290	2.0	22
ニュージーランド	30	0.5	23	98	1.1	23	277	1.9	23
ブラジル	28	0.4	24	94	1.0	24	277	1.9	24
ポーランド	27	0.4	25	93	1.0	25	287	1.8	25
台湾									

注1) 論文の被引用数（2018年末の値）が各年各分野（22分野）の上位1%に入る論文数がTop1%論文数である。Top1%補正論文数とは、Top1%論文数の抽出後、実数で論文数の1/100となるように補正を加えた論文数を指す。
 注2) 分析対象は、Article、Reviewである。年の集計は出版年（Publication year, PY）を用いた。全分野での論文数シェアの3年移動平均（2016年であればPY2015、PY2016、PY2017年の平均値）。整数カウント法である。被引用数は、2018年末の値を用いている。
 注3) クラリベイト・アナリティクス社 Web of Science XML (SCIE, 2018年末バージョン)を基に、科学技術・学術政策研究所が集計。
 出典：文部科学省 科学技術・学術政策研究所、科学技術指標2019、調査資料-283、2019年8月